

2022 年度 武蔵野短期大学 履修の手引き

目次

1. 単位について	4
1) 単位の数え方	4
2) 履修できる単位数の上限	4
2. 授業について	4
1) 授業の時間割	4
2) 授業科目の区分について	5
3) 休講と補講について	5
4) 授業を欠席するとき	5
3. 定期試験を受けるとき	6
1) 定期試験を受けるときに注意すべきこと	6
2) 追試験について	7
3) レポートを提出するとき	7
4. 成績について	7
1) 成績の評価	7
2) 保証人への成績送付について	8
3) 成績に関する問い合わせについて	8
5. GPA について	8
6. 卒業認定・学位授与について	9
資料	10
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	10
・カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成方針・実施の方針)	10
・アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）	11

・ アセスメント・ポリシー（学修成果到達目標の方針）	12
・ ナンバリング コード	15

「履修の手引き」の位置づけについて

新年度当初に配布された『学生便覧』とは、大学のルールや心得、免許・資格に関することや履修や卒業の要件などが書かれているものです。『学生便覧』は毎年作成され、皆さんに配布されます。本学ホームページでも、『学生便覧』をダウンロードすることができます(<https://www.musashino.ac.jp/mjc/department/curriculum/handbook/>)。本手引きは、『学生便覧』を補足することを目的に作成されていますので、『学生便覧』と合わせてお読みください。

1. 単位について

大学では授業の方法に応じて、各授業科目の「単位」が決められており、その授業の成績評価が「C」以上が合格となり、「単位」が与えられます。

1) 単位の数え方

1 単位は、1 授業科目につき 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成されるのが標準です。

2) 履修できる単位数の上限

履修できる単位数の上限は、1 年間で 48 単位です。この上限は、資格のみに関わる卒業要件に含まれない科目は含まれません。なお、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格両方の取得を目指す学生については、教務部長の許可により、上限を超えて履修登録することができます。

2. 授業について

本学の授業は、前期と後期に分けて行われています。

前期 4 月 1 日から 9 月 20 日

後期 9 月 21 日から 3 月 31 日

1) 授業の時間割

授業は、90 分を 1 授業時間として行われます。

第 1 時限	8 : 50～10 : 20
第 2 時限	10 : 30～12 : 00
第 3 時限	12 : 50～14 : 20
第 4 時限	14 : 30～16 : 00
第 5 時限	16 : 10～17 : 40
第 6 時限	17 : 50～19 : 20

* 年度始めに、前期分・後期分の印刷した授業時間割表を配布します。

本学ホームページでもダウンロードすることができます

(<https://www.musashino.ac.jp/mjc/department/curriculum/handbook/>)。

2) 授業科目の区分について

授業科目は、いくつかの考え方により区分することができます。一つは基礎科目、専門科目、という区分です。それぞれに卒業するまでに必要な単位数が異なっているので、計画的に履修するときのポイントの一つになります。

基礎科目	社会全体の価値観の多様性を理解する内容です。
専門科目	幼児教育や児童福祉を中心とした専門的な内容を学びます。

また、もう一つの分け方として、必修科目と選択科目があります。必修科目は、卒業するまでに必ず単位を取得する必要があります。選択科目は、多くの科目の中から選んで履修する科目になります。

3) 休講と補講について

○休講とは

大学や先生の事情によって授業が休みになることを休講と言います。休講の情報は、Musashino Academic Station（以下、MAS）で確認できます。また、教務部掲示板にも掲示されます。こまめに確認しましょう。

○補講とは

授業が所定の回数に足りない場合などは、正規の授業時間とは別に日時を決めて授業をおこなうことがあります。これを補講と言います。日時・教室等は、MASで確認できます。また教務部掲示板にも掲示されます。

4) 授業を欠席するとき

武蔵野短期大学では、厚生労働省の指導により、いかなる理由でも授業に参加しなければ欠席扱いとなります。また、厚生労働省に指導により、単位取得には2/3以上の出席が必要となります。インフルエンザ等による出席停止や忌引、実習や就職活動によるやむを得ない欠席もありうるので、自身の出席管理を徹底して下さい。やむを得ない事情により、欠席する場合には教務部から「欠席届」を記入し、授業の担当教員に直接提出してください。なお、以下に該当する場合は、教務部へも1部「欠席届」を提出します。なお、「欠席届」は理由がやむを得ないものであることを届けるもので、欠席が出席扱いになることはありません。

- ・出席停止となった場合

インフルエンザ等による「出席停止」の場合、医師の診断書（コピー可）を添付の上「欠席届」を保健室に提出してください。

- ・忌引きの場合

ご会葬葉書等、証明できる書類を添付の上「欠席届」を教務部に提出してください。

出席の確認は、毎回授業でおこないます。出席情報は、各時限で教室にある端末に学生証をかざすことで登録されます。したがって、授業に出席する際は、学生証を必ず携帯して下さい。また、自身の出席状況は、自分で管理してください。授業は通常 9 回か 15 回でひとまとまりです。“補講”も正規の授業となります。単位取得は、2/3 以上の出席が条件です。

3. 定期試験を受けるとき

授業科目の成績評価には、定期試験が含まれることがあります。試験期間は『2022 年度学生便覧』の教育計画で確認できます（39 頁）。定期試験の時間割は試験期間初日のおおよそ試験期間のおおよそ 10 日前に教務部掲示板に掲示します。

1) 定期試験を受けるときに注意すべきこと

- ・定期試験には、「学生着席時間（試験開始時刻 10 分前）」と「試験時間」があります。学生着席時間までに指定された座席に着席して試験を受ける体制を整えてください。「学生着席時間」から、試験についての確認や、問題用紙等の配布を行います。

- ・試験を受けるときは、机の上に学生証を置いてください。万が一、忘れてしまった場合は学生着席時間の前に学生部で仮学生証を発行してもらってください。

- ・どの試験も机の上には、鉛筆（シャープペンシル）、消しゴム、鉛筆けずり、メガネのみを置くことができます。また、スマートフォンやウェアラブルウォッチ等の通信機能のある機器は電源を切り乾電池にします。服のポケット等に入れている場合は不正行為と見做す場合があります。

- ・授業科目によっては、机の上に教科書やノート、プリントを置くことを許可する場合があります。机に出せるものは、各授業科目担当の先生から事前に申請があったもので、定期試験の時間割で確認できます。

- ・遅刻することが分かった場合は、試験が開始される前に教務部に連絡をしてください。なお、

試験開始から 30 分後が遅刻限度時刻となります。遅刻限度時刻までに入室ができた場合は受験を認めますが、試験時間の延長はしません。また、遅刻限度時刻を過ぎての入室、受験はできません。交通機関等の遅れが出る場合がありますので、試験日については特に余裕を持った通学を心掛けましょう。

・不正行為があった場合は、その授業科目の評価は零点とされ、学則により処分されます。

2) 追試験について

忌引や病気、事故等学生本人の責任ではないやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を受けることができます。追試験を受けるためには、出席できなかった理由を証明する書類（診断書等）の提出が求められます。まずは教務部に申し出てください。

3) レポートを提出するとき

授業科目によってはレポートの提出を求められます。提出方法は2種類あります。各先生に直接提出する方法と MAS により提出する方法です。授業科目担当の先生の指示に従って提出しましょう。また、決められた文字数と提出期限等を守ってください。

4. 成績について

履修した授業科目には、すべて成績がつきます。それぞれの授業科目は評価基準により、授業科目担当の先生が評価します。成績によって、その授業の単位が取得できるかどうかが決まり、GPA の値にも影響します。GPA については、8・9 頁をご参照下さい。

1) 成績の評価

5 段階で S から F までのアルファベットで示されます。S から C は合格です。F は不合格となり、単位が取得できません。評点との対応は下記のとおりです。成績の開示は、MAS を通して行われます。

合格				不合格
S	A	B	C	F
90 点以上	80～89 点	70～79 点	60～69 点	59 点以下

2) 保証人への成績送付について

学期の成績が確定した時点で、保証人へ成績を通知します。保証人に変更（氏名・住所・電話番号等）が生じた場合は、その都度すみやかに学生部に届け出てください。

〈成績送付時期の目安〉

前期：9月下旬 後期：3月中旬

3) 成績に関する問い合わせについて

成績に関する問い合わせとは、成績評価の確認を行うものです。試験内容や採点(評価方法・評価の理由)についての説明や成績の再考・救済を求めるものではありません。例年、成績開示後、1週間を目処に成績問い合わせの期間を設けております。成績問い合わせの期間や方法は、成績開示時に改めて連絡します。

5. GPA について

本学では、各科目の平均値（Grade Point Average=以下「GPA」という）を算出しています。学生においては、自身の GPA から学習充実度を客観的に把握し、学修計画に反映することが求められます。

【 GPA 制度 】

授業科目ごとの成績評価に対して、GP（グレードポイント）を付し（例えば、5段階 A、B、C、D、E の成績評価に対して、それぞれ 4、3、2、1、0 の GP）、この単位当たりの平均を出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。したがって、個々の学生の学修時間当たりの学習到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目の GP に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値をいうことから、学習到達度を表す指標の数値化の意味合いがあります。

本学では S・A・B・C・F の 5 段階で成績評価されます。100～90 を S、89～80 を A、79～70 を B、69～60 を C、～59 を F とする区分しています。GPA の計算は、公平性の観点から卒業要件科目に関してのみ行っています。GPA が 1 点台かそれ以下の場合は成績不良として、全体の単位取得状況と合わせて注意勧告、嚴重注意などの指導対象となる場合があります。

本学における GPA の算出方法は以下の通りです。

GPA

$$= \frac{4 \times S \text{ の修得単位数} + 3 \times A \text{ の修得単位数} + 2 \times B \text{ の修得単位数} + 1 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む)}}$$

6. 卒業認定・学位授与について

卒業は、所定の単位数を取得し、かつ卒業要件を満たしている方に、卒業を認定し、学位を授与します。卒業認定ならびに学位授与は、卒業に必要な単位数（合計 62 単位）を取得するだけでなく、本学の「ディプロマ・ポリシー」に示されている要件を満たしているかどうか重要です。

本学の卒業の認定を得た者には、「短期大学士（幼児教育学）」の学位が与えられます。

資料

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

武蔵野短期大学幼児教育学科では、武蔵野短期大学学則第 26 条に示す卒業要件を満たし、かつ、建学の精神「他者理解」に基づき、人間として真に自覚のある女性を育成することを目的として、以下に示す力を身に付けていると判断した学生に、短期大学士の学位を授与する。

1.(知識・理解)

教育・福祉に関する基本的な知識への理解

2.(汎用的技能)

教育・福祉に関する実践的能力と職業的自覚をもち、多様化する社会的要請に対応できる能力

3.(態度・志向性)

他者と協調・協働して行動し、使命感をもって社会に貢献できる資質や能力

4.(総合的な学習経験と創造的思考力)

獲得した知識や技能を活用し、自ら課題を的確に捉え、課題解決に向けて探求する能力

・カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成方針・実施の方針)

武蔵野短期大学幼児教育学科では、アドミッション・ポリシーに示した資質能力を踏まえ、ディプロマ・ポリシーの達成のために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づいて教育課程を編成する。

1.幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得に関する科目による、幼稚園教諭・保育士養成課程を編成する。

2.教育・福祉に関する専門的知識や技能の習得、職業人としての態度の育成のために、「基礎科目(教養科目)」と「専門科目」を体系的・系統的に配置する。配置については、科目内容の分野や関連性に基づく履修系統図の作成により、学生が科目の体系性・系統性を理解できるようにする。

3.実践的能力の育成のために、「専門科目」における「技術、領域、指導専門科目」の中に表現技能を習得する科目を配置する。

4.建学の精神を理解し、社会性や学ぶ力を身に付けるため、また知識や技能を活用した課題解決能力の育成のために「総合科目」を配置する。

・アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

武蔵野短期大学幼児教育学科では、建学の精神「他者理解」に基づき、人間として真に自覚ある女性を育成するという本学の教育目的の達成に向けて、以下のような者の入学を期待している。

【求める人物像】

1. 幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得し、卒業後は子どもに関わる職業に就きたいという意欲のある者
2. （知識・技能）教育・福祉の学修に必要な基礎学力を備えている者
3. （思考力・判断力・表現力）幼児教育者・保育士を目指すために自らの考えを持ち、表現できる者
4. （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）幼児教育者・保育士を目指すための基本的コミュニケーション能力を備え、「他者理解」の体現に向けて努力する意欲のある者

・ アセスメント・ポリシー（学修成果到達目標の方針）

（2020 年度入学生まで）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教養：豊かな感性を通して、社会と個の関係を理解する。
		教科：基礎技能（音・図）の基礎を身に付ける。
		教職：教職とは何か、教育とは何かといった教員としての社会的使命について理解する。
		福祉：保育とは何か、保育・福祉とは何かといった保育士としての社会的使命について理解する。
		国際：基礎科目（教養科目：英会話 I を含め）や専門科目の学修から国際感覚を養う。
		職業：人間関係の構築と教育と福祉の現場での活用を目指す。
	後期	教養：豊かな感性を通して、社会と個の関係を理解する。
		教科：基礎技能（音）の基礎を身に付ける。
		教職：前期・後期を通して保育内容の 5 領域の基礎を理解すると共に、幼児教育体験活動の経験を通して幼稚園の在り方や幼児を理解する。
		福祉：前期・後期を通して保育内容の 5 領域の基礎を理解すると共に、保育実習 I（保育所）の経験を通して保育所の在り方や入所者を理解する。
		国際：国際幼児教育実習の事前学習を通して視野を広げる。
		職業：幼児教育者・保育者としての実践的能力の開発を目指す。
2 年次	前期	教養：豊かな感性を通して、人間関係の構築の重要性を理解する。
		教科：音・図・体の基礎から応用の力を身に付ける。
		教職：教育課程・保育内容全般を理解すると共に、教育実習の経験を通して幼稚園の在り方や幼児への理解を深める。
		福祉：保育課程・保育内容全般を理解すると共に、保育実習 I（施設）の経験を通して児童福祉施設の在り方や入所者への理解を深める。
		国際：国際幼児教育実習を通して海外の保育状況を知り、理解を深める。
		職業：教育実習・保育実習を通して職業としての幼稚園教諭・保育士の在り方を学び、理解する。
	後期	教養：豊かな感性を通して、人間関係の構築の重要性を理解する。
		教科：音図体の基礎から応用の力をさらに身に付ける。

	教職：教育実習での課題や保育での様々の方法等、幼児教育への理解をさらに深め、子育て支援をする教育者のあるべき姿等を理解する。 福祉：保育実習Ⅱ・Ⅲでの課題や保育での様々の方法等、保育や児童福祉への理解をさらに深め、子育て支援をする保育者・児童福祉に従事する者のあるべき姿等を理解する。 国際：科目「国際理解」を通して海外の幼児教育・保育状況に関する知見を広げる。 職業：教育者・保育者としての資質等について教職・保育実践演習(幼稚園)を通して確認していく。
--	--

(2021 年度入学生から)

(1) 各ポリシーの評価指標

	入学前（入学直後） （アドミッション・ポリシー）	在学中 （カリキュラム・ポリシー）	卒業時（卒業後） （ディプロマ・ポリシー）
機関 レベルの 指標	・ 入学者選抜試験 ・ 調査書等の記載内容	・ GPA ・ 修得単位数 ・ 退学率 ・ 休学率 ・ 課外活動状況	・ 学位授与率 ・ 就職率、進学率 ・ 卒業生アンケート調査
課程 レベル の指標 （幼児教育学科）	・ 入学者選抜試験 ・ 入学前オリエンテーション時の面接 ・ 志望理由書等の記載内容	・ GPA ・ 実習評価 ・ 修得単位数 ・ 退学率 ・ 休学率 ・ 授業評価アンケート ・ 課外活動状況	・ 学位授与率 ・ 就職率、進学率 ・ 免許、資格取得率 ・ GPA ・ 卒業認定プログラム活動の評価
科目 レベル の 指標	・ 入学者選抜試験	・ 成績評価 ・ 授業評価アンケート ・ 学習ループリック	

(2) ディプロマ・ポリシーに関する具体的な評価方法（アセスメント・チェックリスト）

	評価方法	対象者	実施時期	検証
機 関 レ ベ ル	学位授与率	2 年生	卒業時	自己点検・評価委員 によって実施
	就職率・進学率	2 年生	卒業時	
	卒業生アンケート	卒業生	卒業後1年経過から 3 年（年 1 回）	
課 程 レ ベ ル	学位授与率	2 年生	卒業時	ディスクロージャー及 び自己点検・評価委 員によって実施
	就職率・進学率	2 年生	卒業時	
	免許、資格取得率	2 年生	卒業時	
	卒業認定プログラムの評価	2 年生	卒業時	
	GPA	全学生	各期末	
	実習先からの評価	実習履修学生	各実習終了後	
	授業評価アンケート	全学生	各期末	
	課外活動状況	全学生	各年度末	
科 目 レ ベ ル	成績評価	全学生	各期末	各科目担当教員によ って実施
	授業評価アンケート	全学生	各期末	
	学習ループリック	全学生	各期末	

・ナンバリング コード
(2020 年度入学生まで)

武蔵野短期大学ナンバリング							
KR10●● 基礎科目 (教養科目)	KR20●● 技術・領域・指導専門科目	KR2022	造形表現Ⅱ	KR3032	幼児教育体験活動	KR4017	障害児保育
KR1001 文学	KR2001 音楽表現Ⅰ	KR2023	幼児音楽	KR3033	教育実習指導	KR4018	子育て支援
KR1002 音楽	KR2002 造形表現Ⅰ	KR2024	幼児美術	KR3034	教育実習	KR4021	子ども家庭支援の心理学
KR1003 美術	KR2003 幼児と健康	KR2025	幼児体育	KR3041	教職・保育実践演習 (幼稚園)	KR4022	子ども家庭福祉
KR1004 歴史学	KR2004 幼児と人間関係	KR2026	児童文化	KR40●● 福祉専門科目		KR4023	子ども家庭支援論
KR1005 法学 (日本国憲法を含む)	KR2005 幼児と環境	KR2031	保育内容総論	KR4001	保育原理Ⅰ	KR4024	保育の計画と評価
KR1006 政治学	KR2006 幼児と言葉	KR30●● 幼児教育専門科目		KR4002	子どもの保健	KR4031	保育実習指導Ⅰ
KR1007 日本文化論	KR2007 幼児と表現	KR3001	教育原理	KR4003	乳児保育Ⅰ	KR4032	保育実習Ⅰ
KR1008 経済学	KR2011 保育指導論	KR3002	教職概論	KR4004	社会福祉	KR4033	保育実習指導Ⅱ
KR1009 環境科学	KR2012 保育内容 (健康) の指導法	KR3003	教育社会学	KR4005	社会的養護Ⅰ	KR4034	保育実習Ⅱ
KR1010 自然科学概論	KR2013 保育内容 (人間関係) の指導法	KR3004	教育心理学	KR4006	保育の心理学	KR4035	保育実習指導Ⅲ
KR1011 情報処理入門	KR2014 保育内容 (環境) の指導法	KR3005	特別支援教育	KR4011	保育原理Ⅱ	KR4036	保育実習Ⅲ
KR1012 英会話Ⅰ	KR2015 保育内容 (言葉) の指導法	KR3006	幼児理解	KR4012	子どもの健康と安全	KR50●● 総合科目	
KR1013 英会話Ⅱ	KR2016 保育内容 (身体表現) の指導法	KR3011	教育課程総論	KR4013	乳児保育Ⅱ	KR5001	キャリア・ガイダンスⅠ
KR1014 体育実技	KR2017 保育内容 (造形表現) の指導法	KR3012	教育方法	KR4014	子どもの理解と援助	KR5002	キャリア・ガイダンスⅡ
KR1015 体育理論	KR2018 保育内容 (音楽表現) の指導法	KR3013	教育相談	KR4015	社会的養護Ⅱ	KR5003	キャリア・ガイダンスⅢ
	KR2021 音楽表現Ⅱ	KR3031	幼児教育体験活動指導	KR4016	子どもの食と栄養	KR5004	キャリア・ガイダンスⅣ
						KR5005	国際理解

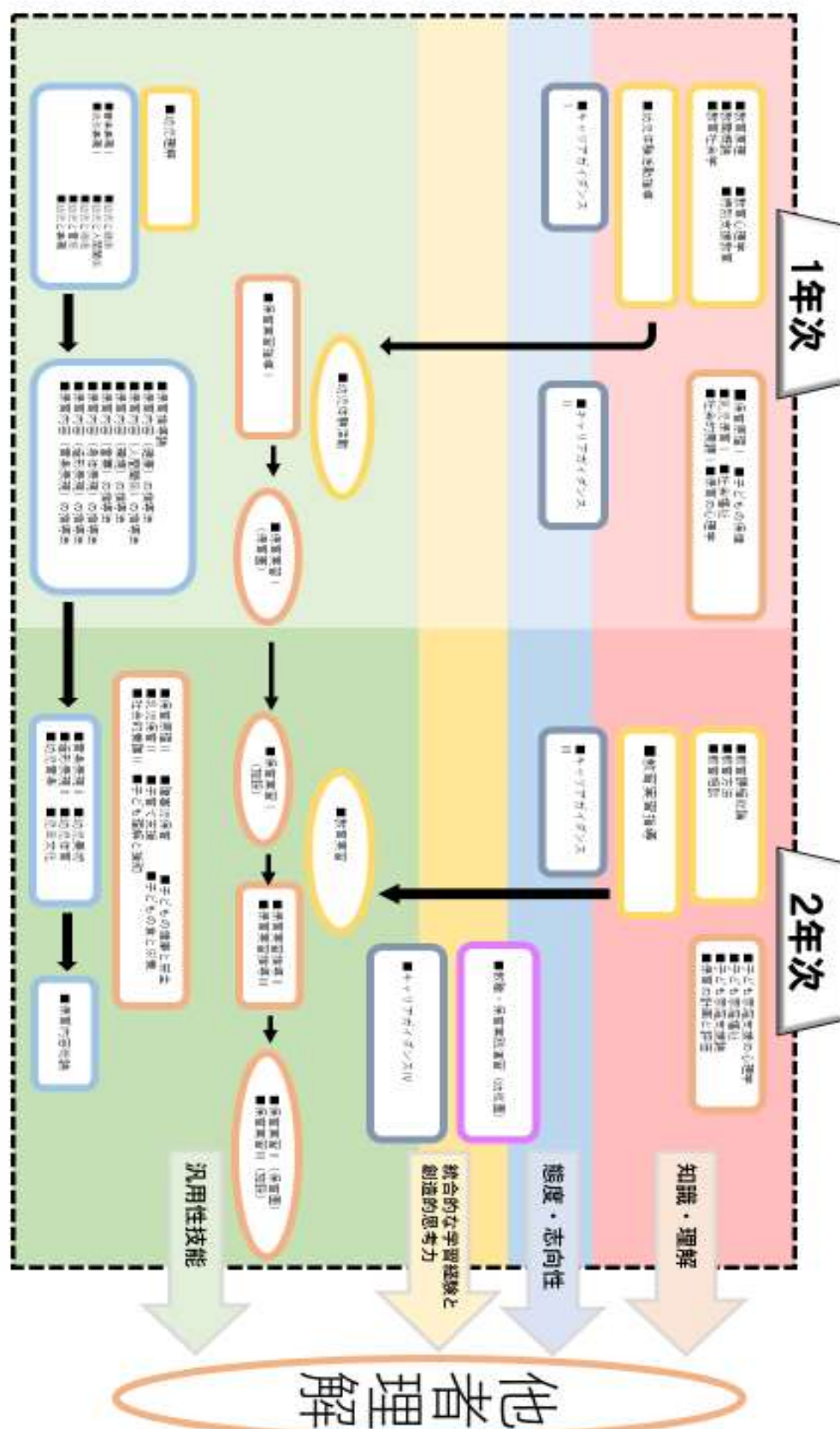
(2021 年度入学生から)

KA10●● 基礎科目（教養科目）	
KA1001	文学
KA1002	音楽
KA1003	美術
KA1004	歴史学
KA1005	法学（日本国憲法を含む）
KA1006	政治学
KA1007	日本文化論
KA1008	経済学
KA1009	環境科学
KA1010	自然科学概論
KA1011	情報処理入門
KA1012	英会話Ⅰ
KA1013	英会話Ⅱ
KA1014	体育実技
KA1015	体育理論
KA20●● 技術、領域、指導専門科目	
KA2001	音楽表現Ⅰ
KA2021	音楽表現Ⅱ
KA2003	幼児と健康
KA2004	幼児と人間関係
KA2005	幼児と環境
KA2006	幼児と言葉
KA2007	幼児と表現
KA2011	保育指導論
KA2012	保育内容（健康）の指導法
KA2013	保育内容（人間関係）の指導法
KA2014	保育内容（環境）の指導法
KA2015	保育内容（言葉）の指導法
KA2016	保育内容（身体表現）の指導法
KA2017	保育内容（造形表現）の指導法
KA2018	保育内容（音楽表現）の指導法
KA2002	造形表現Ⅰ
KA2022	造形表現Ⅱ
KA2023	幼児音楽
KA2024	幼児美術
KA2025	幼児体育
KA2026	児童文化
KA2031	保育内容総論

KA30●● 幼児教育専門科目	
KA3001	教育原理
KA3002	保育者論
KA3003	教育社会学
KA3004	教育・保育の心理学
KA3005	特別支援教育概論（障害児保育を含む）
KA3011	教育・保育課程論
KA3012	教育方法
KA3006	子どもの理解と援助
KA3013	教育相談
KA3031	幼児教育体験活動指導
KA3032	幼児教育体験活動
KA3033	教育実習指導
KA3034	教育実習
KA3041	教職・保育実践演習（幼稚園）
KA40●● 福祉専門科目	
KA4001	保育原理Ⅰ
KA4011	保育原理Ⅱ
KA4012	子どもの健康と安全
KA4013	乳児保育Ⅱ
KA4014	社会的養護Ⅱ
KA4015	子どもの食と栄養
KA4016	子育て支援
KA4002	子どもの保健
KA4021	子ども家庭支援の心理学
KA4022	子ども家庭福祉
KA4023	子ども家庭支援論
KA4003	乳児保育Ⅰ
KA4031	保育実習指導Ⅰ
KA4032	保育実習Ⅰ
KA4033	保育実習指導Ⅱ
KA4034	保育実習Ⅱ
KA4035	保育実習指導Ⅲ
KA4036	保育実習Ⅲ
KA4004	社会福祉
KA4005	社会的養護Ⅰ
KA50●● 総合科目	
KA5001	キャリア・ガイダンスⅠ
KA5002	キャリア・ガイダンスⅡ
KA5003	キャリア・ガイダンスⅢ
KA5004	キャリア・ガイダンスⅣ

履修系統図

(2020 年度入学生まで)



(2021 年度入学生から)

